

2020 年度中間決算報告書



株式会社エフエム東京

各位

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループの第56期上期（2020年4月1日から2020年9月30日まで）の営業状況ととりまとめましたので、ご報告申し上げます。

第56期上期は、本年1月以降の新型コロナウイルス感染症拡大による戦後最大ともいわれる経済活動の悪化と未だに収束時期が見えない不透明さの中で、非常に厳しい経営を迫られた半期でございました。また、開局50周年を迎え、前期より大型の周年イベント等も計画しておりましたが、このような状況下において最優先すべきは人々の安全・安心であると考え、開催断念という苦渋の決断も致しました。

然しながら、良いこともございました。まず、前期より取り組んでおります編成・制作改革の効果が顕著に表れ、上期3回の聴取率調査において、ターゲット層18～49歳男女について、連続して在京局中トップを獲得しております。また、作家 村上春樹氏が自ら語り掛ける「村上RADIOステイホームスペシャル～明るいあしたを迎えるための音楽」が2020年日本民間放送連盟賞番組部門ラジオエンターテインメント部門の最優秀賞を受賞しました。

当社は、ラジオ事業者の枠を超えて、オーディオコンテンツ事業者になることを目指しておりますが、その第一歩として、株式会社ジャパンエフエムネットワーク（JFNC）と共に、本年7月、オーディオコンテンツプラットフォーム「AuDee（オーディー）」をリリース致しました。ラジオとの連携及びラジオの枠を超えたコンテンツの提供により、順調にユーザーを増やしており、今後の当社のビジネス拡大に貢献できるものと期待しております。

前期は、i-dio事業の撤退という大きな決断も行い、関係各位に多大なるご迷惑とご心配をおかけいたしました。今期に入り、i-dio事業の整理についても、概ね終結の目途が見えてまいりました。これも偏に、このような問題を抱える当社を辛抱強く支え見守ってくださった皆様のご理解・ご支援の賜物と心より感謝を申し上げます。

主力となる放送事業は、広告市場全体が新型コロナウイルス感染症の影響により非常に厳しい状況下にはございますが、それでも当社においては、8月頃から回復の兆しが見えてきております。今後も当面は新型コロナによる厳しい経済環境が続いていくことが予想される中ですが、そのような環境下であるからこそ、生活者に向けて当社の新ブランドプロミス「Life Time Audio80.0」に込めた「伝わる言葉と心に届く音楽で生活者の日々を豊かにするオーディオコンテンツを発信しながら、生活者の人生に寄り添い、生活者と共に心豊かな物語を紡いでいく存在でありたいと思います。」という企業理念を具現化したコンテンツをリスナーに届け続け、ニューノーマル下だからこそこの企画提案や前述のAuDee（オーディー）企画の開発等により、収益の獲得にも鋭意邁進して参ります。

今後とも格別のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 黒坂 修

営業の概況

当中間連結会計期間においては、新型コロナウイルス感染症拡大がわが国及び各国の社会生活全般に影響を及ぼし、世界的な経済活動の停滞をもたらしました。国内においては、2020年4月7日に「新型インフルエンザ等対策特別措置法」に基づく緊急事態宣言が発出、その後5月25日には全面的に解除されたものの、1ヶ月以上にわたって経済活動が強く抑制されたことにより、消費・生産・雇用・貿易等が全般的かつ急速に悪化し、2020年4－6月期の実質経済成長率はマイナス28.8%と大幅に落ち込みました。政府月例経済報告の基調判断では、6月には「下げ止まりつつある」とされたものの、7月以降も「依然として厳しい状況」とされており、先行きが見えない状況が続いています。

外出自粛、在宅勤務の増加等の新たな生活環境下、ラジオ聴取者が増加する傾向が見られたものの、著しい景気悪化の影響はラジオ広告市場にも及び、経済産業省特定サービス産業動態統計調査（広告業）では、2020年4－9月平均で前年同月比83.7%となる等、低調に推移しました。

当社グループにおいても主力の「放送事業収入」が期首より前年実績を割り込む状況が続き、9月以降スポット広告収入に持ち直しの動きが見られたものの、上期全体では前年同期比で80%台の売上（連結ベース）に留まりました。また、「企画・制作事業収入」もコロナ禍の影響でイベント・興行等の中止・延期が相次いだ結果、大幅な減収となり、「その他の事業収入」についても直営店舗によるレストラン事業を2020年6月をもって終了した影響により売上が減少しました。

この結果、当中間会計期間におけるグループ全体の連結売上高は71億4千2百万円（前年同期比20.0%減）となり、営業利益は3億4百万円（前年同期比28.2%減）、経常利益は4億2千3百万円（前年同期比3.3%減）となりました。一方、賃貸用不動産「JFNセンター」の譲渡に伴う売却益を特別利益に計上した影響により、親会社株主に帰属する中間純利益は16億3千3百万円（前年同期比93.0%増）となりました。

当社単体の業績については、売上高が49億9千9百万円（前年同期比22.3%減）、営業利益が1億7千1百万円（前年同期比53.1%減）、経常利益が4億7千4百万円（前年同期比2.2%増）、中間純利益は16億8千8百万円（前年同期比426.2%増）となりました。

連結事業セグメント別の営業状況は以下の通りです。

<放送事業活動>

開局50周年を迎えた当期、当社は新たなブランドプロミス（編成指針）“Life Time Audio 80.0”を掲げました。

「伝わる言葉と心に届く音楽で、生活者の日々を豊かにするオーディオコンテンツを発信しながら、生活者の人生に寄り添い、生活者と共に心豊かな物語を紡いでいく存在でありたい」－“Life Time Audio 80.0”には、こうした音声メディアの原点ともいえる想いを込めています。

このブランドプロミスの下に、より幅広いリスナーに支持される放送局を目指して、番組編成のコアターゲットを従来の「M1F1層（20～34歳）」から、「18～49歳」へと拡大しました。それに伴い、大人の鑑賞に堪えうる社会的関心事の取り上げ強化、嘘・建前のない心から伝えるトークの徹底、ラジオ聴取者層におけるボリュームゾーンである「M2F2層（35～49歳）」の聴取につながるような新旧・洋邦の名曲を織り交ぜた選曲等、編成改革を推進しております。

2020年4月の番組改編においては、改編率25%に及ぶ大型改編を実施。当社の「ブランド形成強化」につながる発信力・影響力・キュレーション力のあるキャスティング強化を改編の柱とし、看板番組「JET STREAM」（月～金曜 24:00～24:55）にトップアーティストの福山雅治氏を起用、さらにプロデューサー秋元康氏監修による新番組「TOKYO SPEAKEASY」（月～木曜 25:00～26:00）をスタートさせたほか、人気番組「SCHOOL OF LOCK!」（月～金曜 22:00～23:55）のレギュラー出演者を一新しました。また、社会的関心事への取り組み

の強化を具現化する番組として、報道ワイド番組「TOKYO SLOW NEWS」(月～木曜日 20:00～21:00)、SDGsに取り組む企業の活動を取り上げ、「サステナブル」な未来へのヒントを発信する番組「サステナ*デイズ」(木曜 11:30～13:00)をスタートさせました。

これらの取り組みの結果、2020年4月の聴取率調査では、新コアターゲットに掲げた「男女18～49歳」において単独トップを獲得し、「男女12～59歳」においても1990年の合同調査開始以来、初の単独トップとなりました。続く6月、8月の調査においても、新コアターゲットの「男女18～49歳」でトップを維持しています。

当社では、2018年より世界的作家・村上春樹氏がディスクジョッキーをつとめる『村上RADIO』を隔月で放送し、大きな話題を集めてまいりましたが、新型コロナウイルスの緊急事態宣言下、村上春樹氏自身より「こんな厳しい時節だから、“明日を明るく迎えるための歌”を集めた番組ができれば」という提案があり、2020年5月に特別番組『村上RADIO ステイホームスペシャル～明るいあしたを迎えるための音楽』(5月22日(金) 22:00～23:55)が実現しました。

番組では、コロナ禍について村上氏より「善と悪、敵と味方の対立ではなく、どれだけ知恵を絞り、助け合えるかという試練の場。殺し合う力の戦いではなく、生かし合う知恵の戦い。」との言葉が語られ、放送終了後には番組での発言が新聞各紙やネットニュース、世界中のメディアでも取り上げられるなど、大きな反響を巻き起こしました。同番組は、2020年日本民間放送連盟賞の選考において、「ステイホームの中で、人々の愛や思いやりの大切さを実感させ、明日への前向きな気持ちを持たせてくれた」と高い評価を得、「番組部門・ラジオエンターテインメント番組」の最優秀賞を受賞しました。

村上氏の当社番組出演等の機会は今後さらに拡大してまいります。テレビ出演や新聞・雑誌のインタビューを受けない村上氏のラジオへの愛着は、当社のみならずラジオ業界全体のメディア価値向上をもたらしてくれました。

8月には、当社が前年度に放送した特別番組「ねじれちまった悲しみに」(2019年8月18日 19:00～19:55)が、第46回放送文化基金賞のラジオ番組部門・最優秀賞を受賞しました。前年度(2019年4月～2020年3月)に民放・NHKで放送された番組の中から優れた作品に対して贈られる同賞は、日本の放送界で最も権威のある賞の一つといわれており、当社にとっては初の最優秀賞受賞となりました。

なお、当社はFM放送事業者という枠を超えて、“オーディオコンテンツ事業者”への進化を目指していますが、WEB上で多彩な音声コンテンツを提供するプラットフォームとして、従来運営してきたサイト「JFN PARK」を7月に「AuDee」(オーディー)と改名、デザインや操作性を改善し全面リニューアルいたしました。

「AuDee」では、本格的な5G時代の到来に向け、FM放送での人気番組と連動した音声コンテンツ、放送番組とは独立したオリジナル企画・制作番組、さらには読み物として発信するテキストと画像等による記事コンテンツ等、オンデマンド・コンテンツ(ストック型コンテンツ)を提供してまいります。

7月のリニューアル以降ユーザー数も順調に拡大し、8月には85万人の月間アクティブユニークユーザー(MAU)を集めるまでに至り、大手広告代理店等からマネタイズの提案を数多くいただいております。今後はMAU 100万人を達成した上で、ネットストリーミングなど音楽系の有力サイト等との連携も強化しながらMAU 300～500万人への拡大を目指し、FM放送とならぶ収益事業に成長させて行く方針です。

<企画・制作事業活動>

新型コロナウイルスの影響を受け、エンタテインメント業界は大きなダメージを受けております。当社においても、上期に予定していた夏の大型野外イベントや海外ミュージカルの招聘公演など、平時であれば大きな成果が期待される大型出資案件が全て中止・延期となりました。

コンサート開催における観客数の上限として政府が設定した「収容人数の50%」という制限

は 9月末時点でも継続されており、興行界においては、WEB配信を組み込んだコンサートにより収支を成立させようとするなど、新たな収益モデルを模索している状況です。

当社においても、アーティストのファンクラブ会報誌の編集業務の受託など、興行以外の収益を一部計上いたしました。興業収入の激減を補完するには至らず、企画・制作事業は大幅な減収となりました。

<インフォメーションプロバイダー事業活動>

連結子会社ジグノシステムジャパン(株)では、主力のスマートフォン等のモバイル端末向けコンテンツ事業において、SNSで人気のキャラクターを用いたカジュアルゲームの開発等に注力しました。また、企業向けにWEB技術・システム開発を受託するソリューション事業については、コロナ禍により大口顧客からの発注差し控え等の影響がありましたが、イベント等で密を避けるツールとしてニーズが高まっている整理券発券/入場制限管理システムの開発等、新たな展開に取り組みました。さらに、キャラクターライセンスビジネスや自社ECサイト向けの商材を強化した物販ビジネスが売上を伸ばし、収益基盤を広げました。

<賃貸事業活動>

オフィスビル「JFNセンター」等による賃貸収入を計上いたしました。

なお、「JFNセンター」については2020年9月末をもって売却をいたしました。

<その他の事業活動>

TOKYO FM 少年合唱団は、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し団員の安全を確保した上で、10月に8ヵ月ぶりに公演が再開される新国立劇場のオペラ「夏の夜の夢」への出演への準備、来春公開予定の映画の挿入歌歌唱等の活動を行いました。

また、従前より直営2店舗によって運営してまいりました「レストラン事業」については、当社の事業見直しの一環として、6月末をもって営業を終了いたしました。

前年同期比較中間損益計算書（連結）

2020年4月1日～2020年9月30日

（単位：千円）

勘定科目	2021年3月期中間期 (2020.4.1～ 2020.9.30)	2020年3月期中間期 (2019.4.1～ 2019.9.30)	前年同期比
売上高	7,142,405	8,925,189	80.0%
売上原価	4,385,711	5,806,919	75.5%
売上総利益	2,756,694	3,118,269	88.4%
販売費及び一般管理費	2,452,692	2,694,607	91.0%
営業利益	304,002	423,662	71.8%
（売上高営業利益率）	4.3%	4.7%	
営業外収益	130,077	90,919	143.1%
営業外費用	10,904	76,753	14.2%
経常利益	423,175	437,828	96.7%
（売上高経常利益率）	5.9%	4.9%	
特別利益	1,741,234	1,190,900	146.2%
特別損失	—	574,312	—
税金等調整前中間純利益	2,164,410	1,054,416	205.3%
法人税、住民税及び事業税	288,694	154,308	187.1%
法人税等調整額	216,303	47,371	456.6%
中間純利益	1,659,412	852,736	194.6%
非支配株主に帰属する 中間純利益	26,033	6,629	392.7%
親会社株主に帰属する 中間純利益	1,633,379	846,107	193.0%

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前年同期比較中間損益計算書（当社単体）

2020年4月1日～2020年9月30日

（単位：千円）

勘定科目	2021年3月期中間期 (2020.4.1～2020.9.30)	2020年3月期中間期 (2019.4.1～2019.9.30)	前年同期比
売上高	4,999,666	6,436,720	77.7%
売上原価	3,111,846	4,110,737	75.7%
売上総利益	1,887,820	2,325,983	81.2%
販売費及び一般管理費	1,716,770	1,961,129	87.5%
営業利益	171,049	364,854	46.9%
（売上高営業利益率）	3.4%	5.7%	
営業外収益	317,508	124,610	254.8%
営業外費用	13,917	25,080	55.5%
経常利益	474,640	464,384	102.2%
（売上高経常利益率）	9.5%	7.2%	
特別利益	1,685,920	1,185,242	142.2%
特別損失	—	1,187,874	—
税引前中間純利益	2,160,561	461,751	467.9%
法人税、住民税及び事業税	250,867	129,077	194.4%
法人税等調整額	220,870	11,713	1885.6%
中間純利益	1,688,822	320,960	526.2%

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前年同期比較売上高内訳書(当社単体)

2020年4月1日～2020年9月30日

(単位:千円)

	2021年3月期中間期 (2020.4.1～2020.9.30)	2020年3月期中間期 (2019.4.1～2019.9.30)	前年同期比
売上高	4,999,666	6,436,720	77.7%
放送事業収入	4,842,627	5,817,355	83.2%
放送収入	3,373,663	3,853,469	87.5%
タイム放送料	2,317,278	2,679,728	86.5%
スポット放送料	1,056,384	1,173,741	90.0%
制作収入	1,091,877	1,346,303	81.1%
その他	377,086	617,582	61.1%
企画事業収入	38,769	450,261	8.6%
賃貸事業収入	107,674	119,362	90.2%
その他事業収入	10,595	49,739	21.3%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

56期(上期)広告会社取り扱い順位

<総合順位>

56期	55期	広告会社
1	2	電通
2	1	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	ADKマーケティング・ソリューションズ
4	4	全農ビジネスサポート
5	5	大日本印刷
6	6	オレンジ・アンド・パートナーズ
7	15	エスプロックス
8	7	東急エージェンシー
9	8	ユータムエンタープライズ
10	23	日本経済広告社

<タイム>

56期	55期	広告会社
1	2	電通
2	1	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	ADKマーケティング・ソリューションズ
4	4	全農ビジネスサポート
5	5	大日本印刷
6	6	オレンジ・アンド・パートナーズ
7	7	東急エージェンシー
8	8	読売エージェンシー
9	34	日本経済広告社
10	9	テレビ朝日サービス

<スポット>

56期	55期	広告会社
1	1	博報堂DYメディアパートナーズ
2	2	電通
3	7	エスプロックス
4	3	ユータムエンタープライズ
5	-	アドグリーン
6	6	オリコム
7	4	放送文化事業
8	8	ADKマーケティング・ソリューションズ
9	5	東急エージェンシー
10	11	マッキャンエリクソン

2021年3月期 中間決算短信

2020年11月26日

会社名 株式会社 エフエム東京

URL <http://www.tfm.co.jp>

代 表 者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 黒坂 修

問 合 せ 先 責 任 者 (役職名) 執行役員 経営管理局長

(氏名) 東 和志

T E L (03)3221-0080

配当支払開始予定日 2020年12月7日

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期中間期の連結業績 (2020年4月1日～2020年9月30日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期中間期	7,142	△20.0	304	△28.2	423	△3.3	1,633	93.0
2020年3月期中間期	8,925	—	423	—	437	—	846	—

	1株当たり中間純利益		潜在株式調整後 1株当たり中間純利益	
	円	銭	円	銭
2021年3月期中間期	1,823	08	—	—
2020年3月期中間期	944	38	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円		百万円		%	
2021年3月期中間期	31,133		22,045		69.3	
2020年3月期	29,156		20,064		67.3	

(参考) 自己資本 2021年3月期中間期 21,587百万円 2020年3月期 19,625百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	中間期末		期末		合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2020年3月期	—	—	—	—	—	—
2021年3月期	60	00				
2021年3月期 (予想)			60	00	120	00

※注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有

新規: 1社

除外: 2社 (株)グランド・ロック、TOKYO SMARTCAST(株)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- | | |
|----------------------|---|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更 | 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | 無 |
| ④ 修正再表示 | 無 |

(3) 発行済株式数 (普通株式)

- | | | | | |
|----------------------|-------------|----------|-------------|----------|
| ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む) | 2021年3月期中間期 | 900,000株 | 2020年3月期 | 900,000株 |
| ② 期末自己株式数 | 2021年3月期中間期 | 4,057株 | 2020年3月期 | 4,057株 |
| ③ 期中平均株式数 (中間期) | 2021年3月期中間期 | 895,943株 | 2020年3月期中間期 | 895,943株 |

(参考) 個別業績の概要

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期中間期の個別業績 (2020年4月1日～2020年9月30日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期中間期	4,999	△22.3	171	△53.1	474	2.2	1,688	426.2
2020年3月期中間期	6,436	4.0	364	36.8	464	△7.4	320	△17.7

	1株当たり中間純利益
	円 銭
2021年3月期中間期	1,876 47
2020年3月期中間期	356 62

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期中間期	30,145	20,965	69.5
2020年3月期	28,195	18,944	67.2